

(第 1 回福島県総合教育会議資料)

# 就学前の子ども施策の充実について

令和 4 年 8 月 2 6 日

教育庁義務教育課

# 就学前の子どもの施策の充実について

義務教育課

## 福島県総合計画

将来の世代が夢や希望を持つために

## 第7次福島県総合教育計画

(国の動き)

## こども家庭庁設置

こどもが自立した個人としてひとしく健やかに成長できる社会の実現へ

## 施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

学校段階を見通した確かな資質・能力の育成

## 幼児教育の充実と幼小連携の取組を推進する

- 幼児教育段階からの非認知能力の育成
- 幼児教育で資質・能力の基礎を育み、小学校以降の教育につなぐ

育成を目指す資質・能力（小・中・高）

一人一人を伸ばす  
ふくしま学力向上推進事業など

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

# 「幼児教育の充実」により期待できる効果

- ◆個人と社会のWell-beingの実現
- ◆「福島県民」のプライドとブランド

【福島県が育成したい人間像】(第7次福島県総合教育計画より)  
急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人

## 社会生活

- ✓ 労働者の生産効率の上昇
- ✓ 犯罪率の低下
- ✓ 生活保護対象者の減少
- ✓ 持ち家率の向上 など

## 学校教育

- ✓ 学力の向上
- ✓ 体力の向上
- ✓ いじめの未然防止
- ✓ 不登校児童生徒の減少
- ✓ 児童生徒の自殺防止 など

期待できる効果

幼児教育の充実

## 幼児教育に関する各種調査(例)

(国立教育政策研究所資料より)

### 親や家庭環境が子どもに与える影響

●親や家庭環境が子どもに与える影響は大きい  
《世帯別年収に見た子どもの語彙能力》

(日本、浜野・内田, 2007)

- ・ 小学校入学後の学力と極めて高い相関のある「語彙能力」の格差は4歳時点で発生

### 教育が成績や子どもの環境を高める効果

●子どもは親や家庭環境の状態によっては否定的影響を受けるが、家庭外教育者との出会いが学業成績に良い影響を与えたり、教育が子どもの適応を高めたりする効果がある  
《家庭外教育経験と学業成績》

(O'Connor&McCartney,2007:アメリカNICHED縦断研究)

- ・ 家庭外の幼稚園・学校で教師と出会い、良好な関係を持つ経験が、小学3学年時の子どもの学業成績に影響を与える

《家庭・親の歴史は容易に変えられないが、公教育が介入できる可能性》

(イギリスEPPE研究:Symeetal,2011)

- ・ 家庭教育が悪くても、質の高い幼児教育が子どもに肯定的な効果をもたらす

### 就学前教育が、認知的及び非認知的能力発達に与える影響

●複数の大規模縦断研究が、就学前教育の「質」や「年数」が、その後の子どもの認知的及び非認知的能力発達に肯定的な影響を持つと報告

《ペリー就学前計画・アメリカ》

- ・ 就学前プログラムへの参加により、認知的能力のみならず、非認知的能力が高まることで将来の所得向上や生活保護受給率の低下など長期的効果が表れたと考察

《NICHED・アメリカ》

- ・ 就学前教育の「質」が15歳児の学業成績の高さと優れた社会性に影響を与える

《EPPE・イギリス》

- ・ 就学前教育の「質」と就学前教育を受けた「年数」(特に3・4歳児)が小学6年時の学業成績と社会性(自己調整力)に肯定的影響を与える

エビデンス

# 幼児教育研修支援事業

幼児教育の充実

小中学校につながる遊びを通した学びの充実

豊かな遊びの展開を通した非認知能力の育成

幼稚園教諭等のキャリア  
に応じた指導力の向上

幼稚園等と小学校の効果的な  
連携と接続による連続性の確立

就学前教育の課題（例）

- 公私・施設類型（幼稚園、保育園、こども園）による**保育の違い**
- 遊びを通して学ぶ環境づくり**等について、園や教職員ごとの捉え方の違い
- 園・小における連携の必要性**に関する意識の差
- 園・小連携が行事交流に留まり、**資質・能力をつなぐカリキュラム編成**まで進まないことが多い

園内研修支援等

福島県幼児教育支援方針

園内研修支援

遊びを通した学びを充実させる園内研修を支援

人材育成研修支援

管理職や主任等、キャリアに応じた研修を支援

幼小連携支援

幼児期の教育を小学校に円滑につなぐ取組とそのため  
の研修を支援

被災地復興支援

被災地における幼児教育充実のための研修を支援

**(新) 幼小連携理解推進研修会**

○幼小連携を効果的に進めるためには、発達段階やそれに  
応じた教育方法についての相互理解を深める必要がある。  
そのために、指導者を対象に研修を行う。

【研修内容】

県内・外の先進的な取組等を共有  
幼児教育に対する理解を広めるための演習

福島県の園・校数  
(R3.5.現在)  
保育園 301園  
幼稚園 227園  
こども園 100園  
合計 628園  
小学校 412校

遊びを通した  
学びって何？

本県の課題

大量退職・大量採用

臨時的任用の増加

幼児教育の指導者不足

幼小の連携、接続

被災地の保育環境の変化

- 保育・教育者の指導力の向上
- 各園の研修体制・方法の在り方
- 各園、各地域の核となり幼児教育を推進する指導者やアドバイザーの不足
- 小学校との連携、接続の方法に不安
- 幼児教育と小学校教育に対する相互理解
- 被災地の保育環境の変化に応じた支援

小学校に幼児期の  
学びをつなげ  
たいね。



# 幼児教育研修支援を推進しての成果と課題

## 園内研修支援など

- 具体的な研修方法・内容を保育者とともに考えたことで、保育が変容した。  
例) 一斉保育が多かった幼稚園が、研修を通して個に応じた保育へと転換するようになった。
- 実際に参観した保育を振り返り、保育方法を協議したことで、次の保育や普段の保育に生かすことができた。  
例) ある場面での園児に対する言葉かけの仕方を話し合ったことで、その後の保育で、教師の発問や指示が変わり、遊びの質が高まった。

## 人材育成研修支援など

- 管理職・ミドルリーダーと研修の内容や方法を協議することで、その後の助言に生かすことができた。  
例) 保育者の意欲を喚起する具体的な称賛や激励の視点が分かり、研修が円滑に進んだ。
- 中堅教員が研修を幼児教育の理論や実践を学んだことで、自信をもって自園の研修を進めることができた。  
例) 自園の実態からテーマを決め、実践するまでの一連の流れをつかむことができた。

- 県内の保育園、幼稚園、こども園から依頼があるものの、支援にかかわる指導主事一人での対応には限界があり、ニーズに対応できない。
- これまで看護に力を入れてきた保育園が、保育の質を高める研修の場を要望しており、その相談が増えている。
- 研修の中で、各園は、小学校との連携・接続の理解に意欲的である。今後、学校側の幼児教育理解推進が課題である。

- 各園は同じ立場での研修や、園同士での研修を望んでいるが、対応に限界があり依頼全てには答えられない。
- 各園から、国や県や市町村の考え、方針や施策を勉強したいという声が上がっており、対応を検討したい。
- 県内には、アドバイザーが少なく、育成する場が必要である。またアドバイザーの活用方法も研究したい。4

成果

課題

## 2-(4) 地域における体制のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

### ○架け橋期のカリキュラム開発会議

#### 【構成員】

- ・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
- ・教育委員会、子育て担当部局
- ・教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
- ・保護者や地域の関係者
- ・架け橋期のコーディネーター（有識者）
- ・幼保小の関係団体・有識者
- 等

#### 【取組内容】

- ・幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）、参考資料（初版）を活用しつつ、
- ・架け橋期のカリキュラムの開発
- ・カリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発
- ・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
- ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼稚園関係団体  
保育所関係団体  
認定こども園関係団体  
小学校関係団体  
※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

大学等  
※取組への助言、養成・研修への反映等

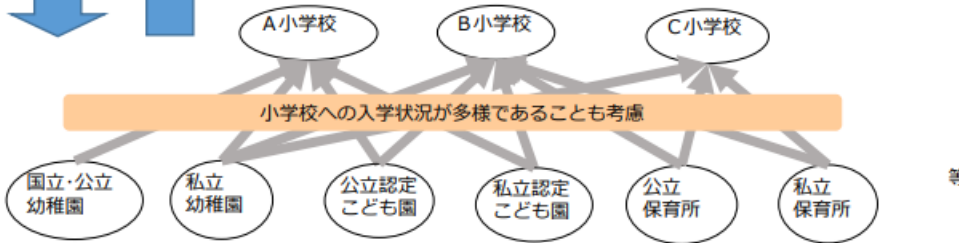
家庭・地域  
※子供の育ちの共有、各園・小学校の取組への協力

様々な立場から意見や事例（動画や画像を含む）を出し合って話し合う

- ・幼保小の先生が、気軽に話し合える関係づくりで必要なことは？
- ・全ての先生が関わり、継続的に取り組むためには？
- ・現場のモチベーションや創意工夫を引き出すには？
- ・現場を孤立させず、リーダーシップを発揮しつつ、適切な支援をしていくには？
- ・園と小学校でのこれまでの取組のよさを生かしながら取り組んでいくためには？
- ・成果を普及し、域内の幼保小の連携・接続を強化していくには？
- ・まちづくりの中で、どう取り組んでいくか？
- ・子供たちの意見も取り入れながら進めていくには？
- ・幼保小の先生を目指す学生等のモチベーションを高め、その力を活用するには？



架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施  
各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化  
持続的・発展的に実施する組織体制の構築



### 架け橋期の教育の質保障(国)

#### 【検証体制】

- ・幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者 等

#### 【検証等の内容】

##### ①実態調査

- ・モデル地域に対して実態調査を行い、各地域の成果検証
- ※実地調査の視点の例：
  - ・架け橋期のカリキュラムの効果（成果）
  - （先生の関わりの変化や意識の変化、子供の変化、保護者の変化、自治体担当者・架け橋期のコーディネーター・幼児教育アドバイザー等の変化 等）

##### ②改善事項の整理、取組推進

- ・幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）、参考資料（初版）、架け橋期の教育の質保障の枠組みに関する改善事項を整理し、全国展開に向けた取組推進

質保障

幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映